

推薦図書

『ルーツ』 アレックス・ヘイリー著

国際言語文化学科
今仲 昌宏 教授



現在、米国では人種差別等を含む様々な問題が要因となって分断化が進んでいるといわれています。黒人初の大統領オバマ氏に続いてトランプ氏が選出される中、改めて米国における人種差別、特に黒人奴隷の問題を知るのにとてもよい本が『ルーツ』です。ここでいう roots はもともと「根」の意から《社会的・文化的・民族的な》出自、先祖という意味として使われています。

この小説は奴隷貿易を通じて、米国に連れてこられたヘイリー自身の先祖であるガンビア出身のクンタ・キンテを始祖とする黒人一家の物語です。三世代にわたる口伝の歴史を小説として日々の生活を通じて克明に描いたもので、実に感動的な物語です。これを読むと黒人奴隷が乗り越えてきた苦難の歴史を垣間見ることができます。

少々古いですが、1977年に制作された優れたビデオ・ドラマ版もありますので、こちらも視聴を薦めます。

図書館で読んでみよう！観てみよう！



『ルーツ 上・下』 【請求番号：288.2/H21/1.2】

『ルーツ：ROOTS 1～5』 【請求番号：778/Rut 視聴覚コーナー】



著者 高槻成紀
発行社 誠文堂新光社
2016年1月15日発行
【請求番号：489.56/Ta55】

学生による！

～Book review～

タヌキと聞いたときにどんなイメージを持つことができるだろうか。いろいろなキャラクターや様々なイメージを思い浮かべるだろう。そのイメージは果たして本当のタヌキに近いものであろうか。イメージでないタヌキというものを基本的な疑問から、生態学に絡めて本書は解説してくれます。日本人が持っているタヌキのイメージで読んでいくと驚くことが多く、タヌキは実は貴重な存在だったのか、タヌキはこのような生活をしているのかと様々な事がわかります。そして野生動物の専門家が一つ一つ丁寧に解説し、私たちがどのようにタヌキとつきあうべきなのかを教えてください。

今仲先生お薦めの「ルーツ」是非読んでみたいなあ～！
ドラマも図書館で鑑賞できるんだね！
とっくんも図書館に行ってみようっと☆

